

牛久：学校周辺に見る自然

第30号 牛久第二小学校

2019年2月26日発行

＜ 冬の校庭で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ④動物 ＞

1月23日、牛久二小4年生との校庭の生き物観察。今回は、昆虫など、動物の冬越しについて。まずは、卵で冬を越す昆虫。卵はからで包まれたカプセルのようですが、マイマイガの卵塊は、



さらに綿のようなものでおおわれます。写真のは鳥か何かに襲われたのでしょうか、それがはがされたようになっていました。カマキリの卵のうちも卵がむき出しではなく、発泡スチロールのようなものにおおわれます。多少の雨風ならびくともしないでしょう。校庭では、オオカマキリのが一番多く見つけられましたね。その他、木の上で生活するハラビロカマキリのも多く見つけられました。コカマキリのも一つだけ見つけましたが、これは古そうですね。昨年か一昨年のでしょうか、空っぽのようです。



卵で冬越し。マイマイガの卵塊（左上）、ハラビロカマキリの卵のうち（左中）、オオカマキリの卵のうち（下2枚）、コカマキリの卵のうち（右上）。



幼虫で集団越冬。ヨコヅナサシガメ(左)と別のサシガメ(右)。

次は、^{ようちゆう}幼虫で冬を越す^{こんちゆう}昆虫。おおぜいでかたまって冬を越すのが、ヨコヅナサシガメなど。サクラの幹のくぼみや、木の名札の裏など、雨風をしのげそうな所でよく見つかります。この日は別のサシガメも見つかりましたが、数は少なく寒そうに見えました。



イラガのまゆ(右：中にはさなぎ直前の幼虫)と空のまゆ(左)。

イラガの仲間はまゆを作って、その中でさなぎ直前の終齢幼虫が冬を越します。今年は空っぽのまゆはたくさん見つかりますが、中身の入ったものは大変少なく感じます。夏の^{もうしよ}猛暑や、台風の影響^{えいきよう}などがあるのでしょうか？



その他、土で固められて守られたスズバチの巣(中には幼虫)も、ブロックの穴の中に見つかりました。あずま屋のは、^{こわ}壊れていましたね。変わったところでは、シロダモの^は葉の虫こぶ。中には、タマバエの^{ようちゆう}幼虫がいます。

泥^{どろ}でかためられたスズバチの巣(左2枚：中に幼虫)とシロダモの虫こぶ。(右：中に幼虫)。



さなぎは、今年はなかなか見つかりませんでした。一つだけガのさなぎらしきものが見つかりましたが、まゆが壊れているようで、生きているのかわかりません。枯れ草の中からは、成虫で冬をこすツチイナゴを見つけ出してくれました。動きはよたよたとしていて大丈夫かなという感じでしたが、何とか春を迎えられるといいですね。

倉庫のひさしにいたガのさなぎ（上）。成虫越冬のツチイナゴ（左下）と、そのかくれていた枯れ草（右下）。



一見、まゆなど作って冬越ししているように見えて、じつは空っぽというものもあります。ミノムシのみのがたくさん見つかりましたが、どれもネグロミノガのものでした。このミノムシは卵で冬を越すので、みの中は空っぽなのです。マツカレハのまゆもありましたが、初夏に羽化した幼虫で冬を越すがで、中は空っぽです。アブラゼミの抜け殻…、もちろん空ですね。



ネグロミノガの空みの（左）とアブラゼミ抜けがら（中）、マツカレハの空まゆ（右）。



ダンゴムシもいましたが、ふつうは石や朽ち木の下で冬越しします。鳥は、声はしてもなかなか姿を見せてくれませんでしたね。冬鳥はツグミが枝のかげにいました。その他、一年中いる鳥ですが、キジバトとハクセキレイも見つかりました。 【理科支援員：宮内】

ブロックのすきまにいたダンゴムシ。



冬鳥のツグミ（左）と一年中いるキジバト（中）、ハクセキレイ（右）。